

第1842号

2017年4月23日

日本共産党根室市議団  
根室市宝林町4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

# どうなる？市内の公衆浴場

3月31日をもって光洋町の「光洋湯」が営業を終了し、市内の公衆浴場は3軒となりました。ピーク時（昭和54年）には11軒あった公衆浴場ですが、人口減に伴い減り続けているのが現状です。



営業を終了した「光洋湯」。入口左の扉には終了を知らせる張り紙が。

現在、光洋町の市営住宅でお風呂がついている住宅に入居されているのは115世帯178人で、そのうち70歳以上の方が71人となつています。また、115世帯の中で約30世帯が自家用車

健康水準の維持向上などの役割をもつています。また、地域の触れ合いの場として、あるいは、家にお風呂があつても、「広い湯船にゆつたりとつかりたい」「サウナに入りたい」などの、いわゆ

るかということですが、公衆浴場の営業に限ったことではありませんが、客の減少、施設の老朽化、後継者不在等の理由により営業を続けられないという事は、やむを得ないことと言えます。問題は、それによって影響を受ける方に対して、どのような対応をとるかということですが、

公衆浴場は、地域の保健衛生水準の維持向上などの役割をもつています。また、地域の触れ合いの場として、あるいは、家にお風呂があつても、「広い湯船にゆつたりとつかりたい」「サウナに入りたい」などの、いわゆ

光洋湯は昭和61年に開業、光洋町の市営住宅に住む皆さんが利用客の中心で、約30年にわたって営業されてきました。ピーク時には一日あたり700人くらいの利用がありました。人口減や、風呂付の市営住宅が増えたことから利用客が減少し、最近では少ない日でも一日30人くらいの時もあったとのこと。

現在市内で営業している公衆浴場は、東から「みなど湯」（海岸町）、「越の湯」（平内町）、「宝湯」（花園町）ですが、3軒とも光洋町からバスで行くには乗り継ぎをしなければならず、かなり不便です。となると、対応としては、光洋町に、入浴施設を兼ね備えた新たな「コミュニティ施設」の設置なども考えられますが、いま、困っている方々のためには、当面、各公衆浴場への交通の便を良くするというのが現実的であると考えます。

今後、場合によっては、今ある公衆浴場が減ることも考えられます。重要な役割を担う公衆浴場を存続するために何が必要なのか、何ができるのか、地域コミュニティの構築という観点からも、私たち市民一人ひとりが考えていく必要があるのではないのでしょうか。

